第１２回県政ひざづめ談議結果概要

〇開催日時：平成２０年８月２７日　１６：００～
〇開催場所：甲府市　アイメッセ山梨

〔司会〕
皆様お待たせいたしました。
ただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。
私、進行を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中でございます。よろしくお願いいたします。
それでは、最初に知事からごあいさつをお願いいたします。

〔知事〕
皆様、こんにちは。
それぞれお忙しい方々ばかりですのに、今日こうしてお集まりをいただきましたことを心から御礼申し上げます。
機械電子工業会の皆さんには、日頃、県政の推進に対して大変ご支援を賜っておりますことを、心から御礼申し上げます。
皆さんは本県の産業の中核でございます。２兆５千億円ある製造業出荷額のうち、約２兆円を機械電子工業会関係の皆さんが担っていただいておりまして、本県の経済の発展、あるいは本県の税収の確保においてもご貢献を賜っているわけであります。
日頃から、経済政策、産業政策について皆さんとは緊密な連絡を保ち、相談しながら進めさせていただいているわけでありますが、今日は『ひざづめ談議』ということで、一風趣向を変えまして、これは年２０回やるんですが、色々な職業の方、あるいはグループの方々と、ざっくばらんに何でも、県政に対する批判、ご意見、ご注文、そういう日頃お考えになっていることを腹蔵なく話をしていただくという会合でございます。
今日は機械電子工業会の皆様に、日頃お考えになっていることを、何でも結構でございますからご開陳いただき、決してきれい事だけではなくて、むしろ厳しいご意見をいただくほうが行政にとってはありがたいことですので、是非よろしくお願い申し上げます。

〔司会〕
本日出席しております県の担当者を紹介させていただきます。
まず、中小企業育成などを担当しております飯沼商工総務課長です。
それから経営革新などの支援を担当しております清水工業振興課長であります。
就業支援､それから技術系人材の確保対策等を担当しております塩谷労政雇用課長です。
職業訓練の実施や支援などを担当しております佐野職業能力開発課長でございます。
本日は機械電子工業会の皆様と「やまなし産業を支える技術系人材の確保・育成について」というテーマを中心にして、産業振興などについて意見交換を行いたいと思います。是非とも忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

〔参加者〕

今日はこういう機会を設けていただきましてありがとうございます。

今日の主なテーマは、「やまなし産業を支える技術系人材の確保・育成について」ということですけれど、そのほかのテーマでも色々と話が出ると思いますので、よろしくお願いいたします。

機械電子工業会で日頃考えている人材確保、それから育成のポイントは３つあります。

一つは高校から理工系専門学校までの一貫した教育の実現ですね。現在は工業高校があって、塩山に産業技術短期大学校があります。工業高校や普通高校から大学に行く人もいるわけですが、理工系の人たちも、大卒だと首から上が割と発達していまして、実際に山梨の中小企業、また中堅企業に入っても、手を余り汚したくないという気持ちの人が多いんですね。

ところが高校から専門学校、要するに世間で言う高専で、５年間地に足の着いた教育を受けますと、首から上も動くし、手足も動かすと。実際にはこういう人たちが、機械電子系の企業や工場で非常に役に立つということなので、この一貫した教育の実現をお願いしたいという、これが一つです。

二つ目は、山梨大学の入学生に地域枠の設定を、ということです。これは知事さん始め前向きに検討していただいて、山梨大学でも来年度の募集から何とか枠を設けますということになりました。人数は今のところ４名、機械システム工学科が２人、電気電子システム工学科が２人ですけど、これをさらに進めていくように、山梨県内に就職する学生を特に優遇して、県内で育てていただきたいということです。

そして三つ目は、これが将来を考えると非常に重要なテーマなんですけど、子どもたちに、ものづくりや理工系への興味を拡大するような支援、教育を、小中学校からしていただきたいということなんですね。最近は小学校、中学校の先生方で、数学とか理科が嫌いな、まあ嫌いと言ったら悪いけど、余り得意でない先生が割合多いんですね。理科、数学が得意な先生の数というのは非常に少なくて、５％から１０％しかいないというような状況らしいです。文系が得意な先生に教えてもらうと、子どもも文系を好む方向が多くなる、こういうことのようですから、特に小中学校の子どもに対して、ものづくりとか理数系を重要視するような教育、教育委員会の先生の採用の方向を、一つの傾向として理数系を重視してもらいたいということ、この３つを特にお願いをしたいということです。

私からはそのあたりのポイントをお話しましたが、出席の皆さんからそれを含めて、さらに多角的なご意見を出していただきたいと思っております。

〔参加者〕

今お話しした大きな３つのポイント、これに関しては１月２３日に知事さんに要望書を出させてもらいました。その要望に対してすぐに対応していただいたということで、活発に行動される知事さんに財界人も喜んでおります。そんなお礼も申し上げながら、３つのポイントをもうちょっと細かくお話ししてみたいと思っております。

先ほど申し上げましたように、高校から理工系の専門学校、特に高専ですね、この一貫教育を実現してもらえないかということであります。

ちょうど山梨県の真ん中に県の工業技術センターがございますよね。あの周りを一つの

大きな拠点としていただいて、あそこで高専の開校をしてもらいたいということです。産学官のメインプログラムを知事の手元で作ってもらって、５年後なり１０年後はこうなっていくよ、とりあえず今はこういうふうにやっていくよ、というお考えが聞ければと思っております。

ご案内のとおり、山梨県は中小企業が９７％ぐらいを占めます。大手の会社は、いい会社がたくさんありますけれども、４０社弱なんです。県内の９６、７％は中小企業、つまり２０人から２９９人までの従業員を抱えている会社が、県内には何百社、何千社とありますので、その辺にも視点を合わせていただきたいと思います。

大学生の場合、例えば山梨大学の工学部の生徒さんですと、現場へ就職するという希望はないと思います。じゃあ中小企業の現場でやってくれる人ということになると、専門学校あるいは高等学校の生徒さんかなと思いますので、県もこの辺に視点を合わせてもらいたいと。ただ大手の方にはもちろんがんばっていただいて、また大手の会社がよそに行ったら困りますので、そういう意味では大学、あるいは大学院も頭に入れてもらいたいと。

中小企業については、高専あるいは高校の技術系、工業高校ですね、そういうところへもっと力を入れていただければ。中小企業というのは大企業の下の、要するに裾野ですから、裾野ががんばらないと大企業だって育ちません。人がいないと大企業だってよそに行っちゃいますよね。そういう意味で、両方育ててもらうように、行政のお力をいただきたいと、こんなふうに思っております。是非高専を、場所は工業技術センターのそばに造って欲しいということで、知事のお考えを聞きたい、これが一つ目です。

それから短期的には、山梨大学における入学生の地域枠の設定です。これにつきましては早速知事に動いていただいて、新聞にも出ておりましたが、山梨大学の方では文科省と話がついて枠ができたと。これからもっと広げてという要望があるようでして、それはお願いするとして、専門的な方を育てていくには、われわれ機械電子工業会は規模的にも金銭的にも小さいので、知事さんのお力をいただいて、じゃあこの辺を一つ県のほうでお金を出そう、産業界を助けてあげよう、山梨県産業界の一番のドル箱だよなというところを考えていただければ非常に嬉しいと、こんなふうに思っておりまして、知事さんのお力をいただきたい、これが二つ目です。

それから三つ目に、小中学生のものづくり、子どもの興味拡大への支援ということでございます。数学や科学、それから理数系ですね、最近は子ども達がこういうことから遠のいているようですので、子どものうちからものづくりが楽しめるような話題提供や、実験、現場研修、あるいはお父さんたちの苦労なんかを見てもらえるように、また理数系の先生ももっと入れていただいて、山梨県に３００人、４００人の小学校の先生がいるなら、各学校に理数系の先生が何人かずついるよと、そういう中で面白い教育をしてもらいたいと。これには授業の増加も含めて、もっと特色を出すように、知事さんから教育委員会へお伝えいただければありがたいなと思っております。

その辺についてまた後ほどお答いただければ、こんなことをやってみてもいいよということがあればお話しいただきたいと思います

〔参加者〕

学校を建てても、学校の生徒が定員に満たないような状況になるかもしれないという危

惧はあると思う。それはかなりの年数をかけてそういう雰囲気に持っていかなきゃ県民の気持ちが集まらない。我々は経営者だから、理工系、理工系って言っているけどね。

話に聞くと、長男だからよそに出したくない、何とか地元の企業に行かせたい、ところが普通高校などの出身だと、東京に出すと帰ってこないというのが多いんだよね。

そういう時にいわば委託学生を扱ってくれるような施設はないのかと思うんだよ。企業側で給料を払ってもいい、県でも補助金を出すような、そういう奨励制度というのを作ってね。学校造ったって、生徒が集まらないなんていう現象が起きないとも限らない。

必ずしもそういうことで行けるかどうかと思うけど、父兄や県民世論がそうならないと定員が満たない、塩山の産業技術短期大学校の先生が生徒を集めるのに苦労しているなんていうのは、需要の問題とか色々あると思う。

農業だ、観光だなんていったって、２兆５千億のうち、７０パーセント以上は我々が占めているんだし、税金は一番多く払ってるのに、我々に対する施策というのはないですよ。

こうやって前線に出て、肌で勉強して施策に生かそうとする姿勢はいいんだけども、余りにも県は役所的で、市町村もそうなんだけど、例えば農業委員会なんていうのは、工場をちょっと拡張したくても、農地を宅地にして・・、手間が掛かってどうにもならないよね。２年も３年も掛かるんだよ。

政治というのは緊急の度合いとか、濃淡があって正しいと思うね。だから行動する県政になって、役所自体も前に出て情報収集をすれば、もうちょっとうまい発想が出ると思う。生の声を聞かなきゃだめだと思うんです。

問題は当面どうするかということですよ。子どもも東京へ出れば行ったきり帰ってこない、跡継ぎが出ていったらかなわないからと仕事を探している。そういうのを企業が引き取って、半年とか１年とか、２年でも預けて、県も助成を出すよと。そしたらそのまま定着するんじゃないかと思いますね。そういうニーズに対応するのもとりあえず当面の手だよね。そういうことも考えて欲しいですよ。

それから観光立県といいますけど、観光なんて一過性のお客しか来ない。山梨県が栄えていくためには人口を増やすことですよ。何をしたらいいかというと、やっぱりものづくりで企業を連れてくること。

企業がきて、山梨県に何人定住するようになったかということですよ。山梨県を永住の地とする人にはこういう優遇措置があるよ、山梨県は住みいいよということがあれば、企業を呼ぶのに非常に有利になると思うんだけど。

我々の会は面倒を見てもらってないですよ。工業技術センターも人員も減っているしね。県政にもうちょっと濃淡を付けてもらわないと。例えば建築許可だって農地の転用から考えれば３年もかかる、３年もかかれば注文主なんかとっくに逃げちゃいますよ。今は地球規模で経済が回っているからね。そういう中で戦いをしていくにはそう簡単にはいかないと思うよ。

だから企業立地というのは大変だろうと思うけど、聞いてみると色々ミスマッチがあるね。県土整備部に行って、荷物が出せないから道を何とか直して下さいと言ったら、お前のところだけが企業じゃないよと、こういう返事が返ってくるんだよね。

相談の主題を知らないと。そのためには前線に出て、知事自らも行動する県政にすればそういう情報も入ってくるし、これは土木の窓口じゃなくて先に商工労働部へ行って、そ

こから横に送ってもらえとか、そういうところから直していかなければだめだと思うんだよね。

確かに我々は専門学校は欲しいし、いろいろやってほしいけども、一挙にできる話じゃない。とりあえずは委託学生を受ける件とか、そういう具体的な話を、前線へ出て聞いて欲しいと思う。知事自身が動くだけでなく、県の幹部自身も、あるいはやまなし産業支援機構とかあるでしょう。そういうところがご用聞きに歩くような姿勢になってくればと思うんだよね。

まず行動する県政にということをお願いをしたいと思います。今日あたりはその一つの現れだと思って、いいことだと思うけれども、知事だけではなくて、みんな飛び出して行動する県政にして欲しいなと、私はそう思います。

〔参加者〕

今鋳造業は非常に大変な時期でございます。私が４０年くらい前に会社を始めた時は、山梨県内に３０社余りありました。それが今は３社しかないです。その３社も、いつお仕舞いにしてもおかしくないような、非常に厳しい状況でございます。

とにかく材料がないんです。お金を出してもない。中国、オーストラリア、国際的な問題で、我々の手が届かないところで商いが出ているわけです。

労働の問題で、研修制度がありますね。うちでもフィリピンから４人、３年間来ています。３年教えて技術を覚えた頃になると、本国に帰っちゃうわけです。それが今度は帰ってから電話をよこして、フィリピンには仕事がない、やっぱり日本へ、甲府へ行きたいんだけどどうだろうという相談がしばしばあるんです。残念ながらビザが取れなくて受入れができないということですが、これは私の所ばかりではなく、日本全国の鋳造業の社長さん方が非常に頭を悩ませているところです。

ところが国会の話を聞いても、そういうところに気を配っている議員さんはだれもいませんね。だから山梨県の知事さんから火を点けていただいて、研修期間が３年であっても、場合によっては延長しますよということにしていただきたい。もしここで何かあって、研修期間は１年で終わりで、それ以上はありませんよとなったら、日本は恐らくつぶれてしまうと思うんです。日本では、私どものような５、６人、１０人、２０人ぐらいの鋳物工場が８０％を占めているわけですから、その工場でできませんということになればえらいことになります。

お陰さまで自動車関連は増えています。私のところも自動車の部品をやっていますから需要はあります。しかし検査は非常に厳しくて、とにかく並では納められないということですから、忙しいけれど、くたびれ儲けという程度の儲けしかないということで、非常に悩んでおります。

そんなことで一つ知事さんのお力で、折に触れ、国会のほうへ足を運んだ時にはお願いしていただきたい。こんなことを言う人もいるよということをお願いしていただければ、日本の鋳造業のためになると思いますので、勇気をふるって今お話をさせてもらいました。よろしくお願いします。

〔参加者〕

知事さんにおかれては、暮らしやすさ日本一ということを大きな目標とされています。山梨県の人口が８９万人を割ったそうですね。

〔知事〕
８７万人ですね。

〔参加者〕
そうですね。それで県そのものの、暮らしやすさ日本一の県づくりについてなんですが、山梨は山紫水明、素晴らしいですね。精密機械にはもってこいの気候条件です。それがどうも余りＰＲが足りないというか。
諏訪は東洋のスイスなんて言って、向こうのほうがキャッチフレーズがうまくて。山梨の立地条件は諏訪よりいいんです。
それでよく言うんですが、ものづくりに力を入れないと絶対にだめです。
知事さんは全国の知事会でも顔役だと思うんですが、このあいだ日経に出ていましたね、県の出荷額、愛知県が３０年間第一位だそうですね。何と４３兆７，２６３億、山梨県の場合は２兆・・。

〔知事〕
２兆５千億・・。

〔参加者〕
愛知県と山梨を比べても、確かに向こうは自動車メーカーがありますし、産業が集積していますからそれはそうなんですが。
地場産業ももちろん大事ですが、工業製品、ものづくりを一生懸命しなきゃだめだよと。お陰様で支援機構ができまして、非常に我々の業界はバックアップされております。１１月に第３０回テクノフェアをやりますが、当初は会場がなくて、転々としていまして、会場を確保するのが大変だったんです。支援機構ができまして、お陰様でここ（アイメッセ山梨）が常設会場になりました。大いにＰＲして、他県からも大勢お客さんに来てもらいたいと思っています。期待は大きいです。

〔参加者〕
工業技術センターも支援機構も人が減っているというのがおかしいんだよね。産業を興すべきという思想を持っていないように見えるわけ。情報を集めたり、支援をする人が減っちゃっているよと。
産業というのを興すにはどこに力を入れるのか。何といっても人口を増やすにはものづくりの企業を増やすほかない。人口が増えれば三次産業も自然に増えると。
だからやっぱり二次産業を増やすほかない。そういうのは自分のエゴで言っているじゃなくて、やっぱり本当に山梨県を優勢に持っていくには、ものづくりの企業を大なり小なり連れて来る他無いと思うよ。職がないと言うけど、それを増やすためにも、ものづくりを増やすほかないじゃないかな。

〔参加者〕

私は、今朝の山日新聞のトップの記事（「技術系人材の不足－採用苦戦東北へ新拠点」）が象徴的だと思っているんです。山日新聞が山梨県産業の悲観的なことを書くのが間違っているんですよ。山梨県の産業のいいところを、連載でもいいから、こうなって良くなっている、あそこもこうなっている、そういうことを書いてくれれば、その記事を見た親も、ああ山梨もいいね、企業があり、いい産業もあり、こういういいこともあるからね、これは県内に子どもをどんどん呼んできて、外に出ている子どもも呼んできて働かせようと、こういう気持ちになる。ところがあれがどこかに行っちまう、これもどっかに行っちまう、もう山梨はつぶれちまうようなことを山日が書く。これは非常にまずいと思うんですよ。これについては、知事さんから言ったほうがいいのか、県庁のしかるべき部署が山日新聞に言うべきじゃないかと私は思っているんです。

新聞によって県民の気持ちはぐっと変わるんですよ。山梨県がおかしくなってしまうようなことばっかり書いてる。それはよくないと思います。もっと明るいことを書いてくれれば良くなるなというふうに思っています。

〔参加者〕

我々のところは、インターンシップとか、職場体験なんかで子どもたちが来るんですよ。そして高校生の話を聞くと、とんでもないほど昔の話をするんですよね。何かと思ったら使っている機械が古いんです。もう１０年も１５年も前の機械を使って勉強しているものだから、我々のところに来ても全然話が合わないんですね。

ですからもっと予算を取って、少なくとも２年に１回や３年に１回ぐらいは、工業高校に新しい機械を買ってやってください。だいたい２千万円か３千万円だから、１億円ぐらい出せば買えますよ（笑い）。工業高校は３つしか無いんだし。

そしてもう一つ、さっきも話があったように、幼稚園や生徒や子どもたちに、愛宕山の科学館を利用してもらうように。動く機械も動かないで止まっていて、修理代も無いなんていう話じゃ可哀想ですよ。だからお金を掛けてあげてください。

機械の話は億単位になると思うから、そんなに簡単にはいかないと思うけども、それでも少しずつ整備してあげないと子どもたちが可哀想です。企業も大変ですから、新しい機械でもっと勉強して欲しいです。

〔知事〕

なるほど分かりました。

〔参加者〕

私どものところは大学生は本社採用で、この地域の採用はできないので、採用は高校生が主体になっています。工業高校の生徒さんもいれば、普通高校の生徒さん、農業高校の方もいます。大体３年ぐらい現場でトレーニングを積みますと、同じぐらいのレベルに持っていけるんですね。

そうなると、私どもも会社の知名度を何とかして上げなければなりません。段々採用の

人数も増えてきまして、来年も２０名前後採用することが決まっていますけれども、採用するにはやはり企業を知っていただかなければならないということです。

私どものような割と地味な企業も、夢があるということを子どもさん方によく知っていただきたい。だから小学校、中学校時代から、ものづくりに興味を持つような仕掛けですね、そういったことをお考えいただきたいということが一つあります。

それからもう一つ､ちょっとこれは知事さんにお願いするのはどうかとも思うんですが、企業のほうに直接おいでいただいて、現場の実態をご覧いただくのが、一番よくお分かりいただけるんじゃないかと思うんですね。

先日、副知事さんにおいでいただきました。ちょっと現場までご案内する時間はなかったんですが、そういったことをしていただくと非常によろしいんじゃないかと。企業の内容をよくご存知いただいて、政治の世界にも反映できるような形ですね。

現実的な話をしますと、新卒のほかに中途採用ということがございますね。中心にいった人材が、事情があって故郷に帰らなければならない、そういった方々が結構おります。そういった人たちが帰りやすいような、働きやすいような方策を積極的にお願いしたい。事情がなくても故郷が恋しいとか、１０年、２０年かけていろんな技術を身に着けた技術者の方々が帰ってきたいと思うような、そういう山梨県にして欲しいと思うんですね。スムーズに企業に入っていけるように。

抽象的な話で申し訳ないんですけど、そういう方策をお考えいただければと思います。先日知事がそういう活動をなさっているというお話は伺いましたけれども、もっともっとお願いしたいと思います。

〔知事〕

分かりました。

〔参加者〕

先ほどからお話を伺っておりまして、やはり長期的に見ますと、理工系の子は、小さいうちからその方面に進めていくという教育が必要ではないかと思います。文系の人に理系の方向を示しても戸惑うことになりますし。

例えば私の孫は、ロボットを組立てるようなクラブ活動に応募して喜んで帰ってきたんですが、人数が多くて外れてしまったと。そして割り振られた先が百人一首のクラブだった。こういう教育ではどうも一貫性がないかなと思います。

それと併せて､私どもの会社で中途採用をする時にハローワークにお願いするんですが、どこの会社がどんな内容の仕事をしているかをよく承知して、適材適所、お薦めいただくのがいいのではないかなと思うんですね。せっかく紹介していただいても、畑違い、方向違いで、無駄に足を運ばせてしまったというケースが非常に多いんです。せっかくの窓口ですから、時間があれば会社を回り歩いて、会社を知っていただいて、お薦めいただきたいと思います。

知事さんは山梨県の将来的なビジョンをお持ちになっていらっしゃると存じます。やはり山梨県の経済は山梨県民でないと作れません。そして経済は人が作ります。先程からのお話しにありますように、全国的にも付加価値生産が一番先導的な立場にあると思うんで

す。
　そこで、今山梨大学で盛んに行われているクリーンエネルギー研究を大いに広告していただきたい。クリーンエネルギーの山梨県というイメージが全体に伝わっていけば、それが環境を連想させて山梨県に魅力を感じ、それに関連した人々が集まって来るのではないかというように思います。何十年に一度出て来るかこないかというクリーンエネルギーでございますので、どうかお力をお寄せいただいて、アドバルーンを揚げていただければというように思います。

〔参加者〕
　一つよろしいでしょうか。女性の問題をちょっと取り上げてみたいと思います。
　うちの職場にも女性がおりますが、非常に少ないんですね。できれば女性パワー山梨県というような形で、１０年後には、職場の中に、男性が半分、女性が半分ぐらいになるように、女性の雇用に力を入れていただきたい。優秀な女性がいっぱいいるんですよ。そういう意味で女性に視点を当ててもらえればありがたいなと思っております。男女が均等に働けるように、やはり１０年後あたりを目途に、女性パワー山梨県ということで、女性問題にも力を入れているよと。
　それから、小学校や中学校にものづくりができるような実験室を作っていただきたいと思っております。
　もう一つ、普通学校あるいは私立学校等にも、ちょっと面白い理数科というようなものを作ってみたらどうかと。また県内の理数系の先生方が県内外で研修するような制度を作って、企業に行ったり、あるいは海外研修に行ったり、そういう予算を作ってあげたら先生方に理解してもらえるのかなと、こんなふうに思っております。
　またもう一つお願いしたいのは、来年も是非、こういう場を作って欲しいということでございます。色々と商工労働部のほうへ要望していくこともあろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

〔参加者〕
　本当に我々の産業を育てようという意識があるならば、産業技術短期大学校でも、山梨県内へ就職することを条件に、授業料をただにするべきだと思うよ。うちの会社に入るために、ポリテクセンターとかに行って勉強してきた人がいるよ。ただで教えて、山梨県内に就職させることですよ。授業料を免除にするようなことはできんもんかね。

〔知事〕
　奨学金制度ですね。

〔参加者〕
　こういう産業を盛んにしようと思ったら何とか英断してもらわなければ。

〔知事〕
　たくさんの貴重なご意見を承って、大変に参考になったわけでありますけれども、２、

３コメントをさせていただきます。

かなりの方から、小中学校からのものつくり教育、理科系教育を充実すべきだというお話がございました。これは本当に切実な産業界からのご要望だというふうに受け止めさせていただいて、是非実現をしたいと思います。

具体的には、例えば科学アカデミー、大村先生などが一生懸命やっておられる科学アカデミーが、学者を小中学校に派遣して教えていますが、あれは拡充するということですからそういうこともあります。

この他に、教育委員会でも、小中学校の総合的な学習の時間に、高等学校、あるいは理数科のＯＢの先生を派遣して、小中学生が興味を持ちそうな理数系の授業をするというようなことを考えているようです。いずれにしてもこれは業界からの切実な要望として、是非実現したいというふうに思っております。

それから最初にお話がございました、工業技術センターを中心にということになるかどうかはともかくとして、高専を開校したらどうかという話でございますけれども、これは正直非常に悩んでいるところです。これは先輩諸氏ご案内のように、高等専門学校を創るということになりますと、調べてみましたら１００億円かかると。そして１０年という年数がかかるんですね。

設置基準が非常に細かいんですね。それで高専の先生というのは教授ということになりますから、やはり一定の水準の人を雇わなければならない。認可まで１０年、そして開校に５、６年掛かって、それから５年間経ってようやく子どもが卒業すると、こういうことなわけです。

そして多くの高専では定員割れの状態になっていて、むしろ縮小していく方向になっているものですから、果たしてそういう状況の中で、高専を作ることがいいのかどうかということは、正直言って我々もまだ迷っているという、こういう状況なんです。

それからもう一つは場所の問題です。やはり郡内のほうからの希望が強くて、これはむしろ機械電子工業会の中で、ある程度話し合いをしていただければありがたいとも思うんですけど、郡内の皆さんは地元に工業系の高等教育機関がないと。甲府の方には山梨大学があり、あるいは産業技術短期大学校があるから、是非郡内のほうに造ってもらいたいということを盛んに言うわけなんですね。それも一つの切実な考え方だと思います。

そうなるとしたら、例えば都留市には谷村工業という工業高等学校があり、それから桂高校という高等学校があり、これを統合したらどうかというのが、今方向としてあるわけですけれども、その際に、併せてそういう専門学校あるいは専修学校になりましょうか、そういうものを作るということも一つの方向としてはあるんじゃないかと。

と言いますのは、前に文部科学次官に会った時にお聞きしたんですが、自民党も検討しているようですけれども、高等学校３年、それにプラス２年の専修科みたいな制度があるにはあるので、これをもっと充実したらどうかという、そういう構想が自民党で、あるいは文部省でも検討されているんですね。そうしますと５年生の学校になるわけですよ。どうも高等専門学校というのは非常に厳しくなっているものだから、それとはまた別に、そういうものづくりの学生を育成する仕組みみたいなものを文科省が考えているようでして、そういう動きなんかも見ながら、例えば都留になるかどうかはともかくとして、そういうことはあり得るかなというふうに思っているところです。

その際にも、まあそういうものを造ってお役人が経営してもなかなかうまく行かないようなところがありますので、できるだけそういう学生をニーズとしてお持ちになっている企業の皆さんが、その学校のカリキュラム編成だとか、あるいは場合によってはその学校の先生としてでもいいですけれども、入っていただいて、自分たちに最も適した学生を育成していくというような仕組みを、これはむしろ産業界の皆さんと一緒に作っていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っているところですが、これは引き続き検討したいと思います。

それから誠に県の対応が悪いと、時間も掛かるということはおっしゃるとおりであります。かつては県庁の産業立地担当は３人だったものですから、なかなかワンストップサービスというわけにはいかなかったわけですが、ご案内のように産業立地室というものを作り、現在は１２名になっております。この１２名が２人のチームを組んで年間４００の企業を回りまして､これは外だけじゃなくて中も回りまして､注文取りをしておりますので、そういう農業関係やその他手続きがある場合には、ワンストップサービスで、その人間が受ければ農政部に直接話をする仕組みになっていますから、今はかなりスピーディーになっていると思いますけれども、もしまだ足らざる点があれば私が直接注意をしますから、お教えいただきたいと思います。

それから研修生を再度呼ぶということについては、これは私が法務副大臣をやっていた時も非常に大きな問題だったわけです。段々日本も門戸を開いてきておりますよね。フィリピンとかインドネシアから看護師さんを呼ぶとか、だからそういう鋳造部門についても同じように技術を持ったしっかりした人であれば、門戸を開いていくという方向になると思います。この件については私もいろんな企業の皆さんから聞いていて、切実な要望だと思っておりますので、国会の問題ですけれども、国会議員の先生方には良くこの辺は話をしたいというふうに思います。

それから工業技術センターは定員が減っているんですかね。

〔工業振興課長〕

若干減っています。

〔知事〕

やっぱり減っている。そうすると臨時職員を増やしているということですか。

〔工業振興課長〕

はい、臨時職員を増やしています。

〔知事〕

臨時職員は増やしていますから全体としては減ってないんじゃないかと思いますが、どうですか。

〔工業振興課長〕

研究職はマイナス４になっております。嘱託、臨時職員を含めて若干ずつ減っているん

です。

〔知事〕
減っているようですね（笑い）。うまくないですね。

〔参加者〕
工業技術センターで年に１回か２回ディスカッションをやるんですよ。その時に人が減っているから対応できないという話もあるんです。

〔知事〕
正規職員でなくてもいいんでしょうかね。臨時職員とか、どうなんでしょうかね。

〔参加者〕
産業構造の実態に合わせて軸足が移っているかいということを問いかけたいですよ。昔は指導所だから出歩いて、前向きだったけど、最近は指導じゃなく研究開発機関になっちゃってね。

〔知事〕
しかし７年間で、これは国家公務員もそうですけど、７年間で５．７％減らさなきゃいかんのです。

〔参加者〕
濃淡を付けて下さいということです。

〔知事〕
濃淡はあるんです。本県の場合には６．４％減らすんですけれども、警察官は減らせるかといったら増やさなきゃいかんですよね。教員も、じゃあ５．７％減らせるかって減らせないんですよ。まあ４％とか、そういう減になる。病院は減らせるかといったら、病院なんかむしろ増やさなきゃ怒られちゃうという状況です。そうすると一般行政職員を減らすということになるんです。これが１３％減るんですね。１３％減るとこれはちょっと大変なところがありまして、その中で工業技術センターを充実するというと・・。

〔参加者〕
職員の定員数を調べたけど、農政部と商工労働部は定員数が違うものな。そういうところの改革を、濃淡を付けて政治をやるべきだと、こういうことを言いたいんだ。

〔参加者〕
他の部をちょっと減らしてもらって、商工労働部を増やしてもらうとか、工業技術センターもちょっと増やしてもらうとか、そういう配慮をしていただくと・・。

〔参加者〕
今考えてみると、４０年前からとにかく鋳物の先進地といえば川口市だったんです。あそこへみんな研修に行きましょうということで、県の商工労働部が連れていってくれました。
やはり川口市は配合も違っていたり、大変勉強になりまして、いい物ができるようになりました。今も工業技術センターでは続けてくれているんです。時に触れ、折りに触れ、出前研修ということでやってくれています。やはり行政とはそういうものだと思うんですね。一時良くないからこれで止めだということでなくて、やっぱり継続してやっていれば、きっといい結果が出るんじゃないかと思ったんです。

〔知事〕
分かりました。
産業技術短期大学校は定員割れをしているわけですが、おっしゃるように奨学金をだして、事実上ただとは言わないまでも、授業料が安く受けられるように、というお話も確かにあると思います。
就職率のほうはものすごくいいわけですからね。倍率４倍だ、５倍だ、１０倍だなんて言ってるわけです。でも入るほうは７割だ８割だと言うんですから、これはおかしいわけであって、まずＰＲが足りない。
まず来年４月の入学生は、定数いっぱいになるように努力するように、ということを一生懸命やっています。その様子をみて、定数が１００人であればそれを１２０人に増やすとかですね。それでだめならしょうがないということもあるかもしれませんが。

〔参加者〕
産業技術短期大学校で、企業の人材を預かれるような制度を創ったらどうだいと。工業技術センターでも、ポリテクセンターでも。
ただ手が欲しいという企業もあるんだよね。そういうところで使えるようにするには、教えるのに３年ぐらい掛かるわね。
だから県も補助をしたり、企業サイドも負担をして、ただで社員を預かるような制度を作ったらどうだろうと私は思うんだけどね。
そういう希望があるかないかっていうのを皆が前線に出て調べて、県がいく方向と我々のニーズと一緒になれば一番いいんだけどね。

〔知事〕
そうですね。委託学生というのはどうですか。

〔職業能力開発課長〕
短期で６カ月とか１年とかであれば、今でも在職者訓練という形で・・。

〔参加者〕
ＰＲが足りんぞ。（笑い）もうちょっと行動する県政になってもらいたい。

〔職業能力開発課長〕
例えば巧の技の伝承塾というのを毎週土曜日にやっているんですけども、社員の方を派遣させていただいてやっています。

〔参加者〕
もうちょっとＰＲすべきだと思うね。そういうものがあるよとか、こういうニーズがあったら、それに答えるこういう窓口があるよということを、もうちょっと。やっぱり能動的にやってほしいなと思う。

〔参加者〕
とにかく人口を増やす施策を、人が増えないことにはどうにもならないかなということがございまして、やはり人口が増えるには、魅力ある県になるということだと思うんですね。
もう一つ、最近はすごく便利になりまして、何でもインターネットで調べられるんですけど、それは全部知識なんですよね。やっぱり現物とか現実とか、体験、実験、経験というか、例えば転んで痛いとか、ごく当たり前のことでも体で覚えるというか、そういうことをやりやすいようにしていただきたい。私が子どもの頃は学校を選ぶ時も、例えば大工をやりたいから工業高校に行きたいとか、将来にわくわくする何かがあった時期があると思うんですよね。
私は文科系なんですけど、ものを作るのが好きな人が、そういう道に進む手助けができるようにということですね。体験や実験、くどいようですけど現物、現場とか、そういうところに魅力を感じるような行政も必要だと思うんですよ。そういうことを手助けするために、資金面、あるいは通勤とか通学とか、そういう部分も含めて、トータルで、長い目で育成するというようなことが必要かなと。
３つ目ですけれども、私の個人的な意見なんですけど、産業構造が全く変わったと思うんです。東京オリンピックの頃からずっと成長を続けてきて、当時の相手は欧米だったと思うんですよね。ですが昨今は、完全にアジアにシフトしていますので、これは最先端のものから、原点のものづくりそのものも、根本的に考え方を変える時期に来ているのかななんて思っています。
だけど絶対に変わらないのは、好きという気持ちだと思うんですね。ものを作るのが好きだとか、好きだという気持ちが大事だと思うので、県が好き、会社が好き、仕事が好き、そういう気持ちを大事にしていけば負けないんじゃないかなと思っています。

〔参加者〕
やはり人口を増やすための施策を何か取ってもらいたいです。
知事さんも含めて県の幹部と、またいろんな教育団体も含めて、アイメッセあたりに県内の若者を集めて大集会をして、本当に「ひざづめ談議」をしてもらいたいと思います。学生とか、県内の中小企業だけでなく、大企業で働く人たちも一堂に集めて、成人の日じゃないですけど、働く人たちの集いみたいなものを、例えば県の商工労働部が集めてやっ

たらどうかということと。

それからインターンの人たちの話を聞くと、私も東京に事務所を持っているので、そこで「山梨に帰ってこい」と言うと「魅力がない」と言うんですよね。「山梨、じゃあどんな魅力があるの」いう話をされると、私も、そうは言っても自分を産んでくれた親がいるんだから面倒をみるのが当然だろうとか、そういう話しかできなくなっちゃうんです。山梨に帰っても魅力がないという、その「魅力」という言葉を言われて、じゃあ自分はどうだったかなと考えてみると、やっぱり住んで良かった山梨、住みたい山梨というものを、皆さんの意見も聞いて作っていただきたい。

明野のひまわりを見に、ここ１５年間で１２０万人ぐらい来ているんですよね。どこから来ているかというと、やっぱり名古屋とか埼玉、東京、そして茨城、群馬、関東近県、山梨を中心に、遠くは関西から来るんですよ、一泊してね。何がいいかといったら山梨のＰＲが行き届いているんですよね。じゃあ住んでみるとかというと、住んではみたいと言うんですけど､その次の言葉が出てこない｡買い物はどこに行くのなんていう話をされて、そこからちょっと話が出来なかったんです。

やはり人口が増加すると全産業が良くなると思うんですね。是非県民総参加というか、全員一致で、若者が定着する、定住される山梨県を考えてみたいなと。そういうことも含めた中で考えていけば、ものづくりというものも進んでくるんじゃないかと思います。

〔参加者〕

私の会社は旧竜王町にあったんですが、拡大するために旧八田村に約５００坪の土地を取得しました。我々中小企業は大きくする意欲を持ってやっているんです。

しかし土地を買うと取得税が掛かって、建物を建てるとまた税金。おまけに下水道をやると受益者負担だとか、小さな会社なので負担が大きいんですよ。

一時は県で売り出している工業団地を考えたことがあったんですけど、坪１０万ということで考えると、千坪買ったとして、すぐ１億円、おまけに上物を建てると２億、３億掛かっちゃう。それを考えると、これから大きくしたほうがいいのか、このまま行ったほうがいいのか、ジレンマに陥りました。

お陰様で、人材は産業技術短期大学校から毎年きてもらって、非常にありがたいです。卒業生は非常によく働いて、素直です。

とにかく我々零細企業は、その億というお金がままならんということですので、いろんな意味で税制の優遇をしてもらいたいなと、そう思っています。

それと同時に、今、産業支援機構で設備のことでお願いしていまして、マシニングセンタという３，２００万円の機械を入れるんです。割賦ということで、金利が大体２．６％なんです。うちは正直言って成績がいいというと失礼ですけども、きちんとお支払いしているんですね。ここ何年も払っている。そして遅れもない。できればそういう会社には金利を下げてもらいたい（笑い)。優劣を付けるというか、そうしていただいて、もうちょっと楽に生産できるようにしてもらえればありがたいなと思っています。

〔知事〕

いやいや、ありがとうございました。

〔参加者〕

今いろんなお話が出てきたんですが、うちのような小さな会社で今一番問題になっておるのがやはり人の問題ですね。まず採用でございます。採用で人がなかなか集まらない。

うちは切削加工をしておりますので、専門職ということになりますと、マシニングの経験者ですとか、ＮＣ旋盤の経験者、そういうことになるんですが、山梨県内ですとそういう方を採用できることはまずございません。

そうなりますとほかの業種の方を採用するということになるんですが、その採用した後の教育の問題、これに一番苦労しているところでございます。先ほども受託で研修等ができるかどうかというお話がございましたけども、私も全く存じませんでした。

研修を引き受けてくれるような所があれば、中小企業の場合ですと、１年というのは長すぎると思うんですが、半年でもしっかり教育していただければ、しかも実際に自分の所でやっているもの、製作するもの、そういうものをテーマにして、そういったような仕事と近いところで、そういう教育を、半年か１年ぐらいやっていただければ助かると思っております。

〔参加者〕

冒頭３点お話がございましたが、その中に、高校からの一貫教育の必要性から、専門学校、高専の設立をという話が出ておりましたけれども、やっぱり是非郡内に設置をということです。

なぜかと申しますと、我が社も東北宮城県仙台市に、１００人ちょっとの人員を抱える工場を持っているんですけども、その仙台で今、２００９年、２０１０年問題というものが出ているんだそうです。何かと言いますと、ご承知のとおり東京エレクトロンさん、トヨタ、デンソウ等々、日本の大手企業が２００９年から２０１０年にかけて、仙台を中心として、宮城県で広大な工場を造るということが報道されています。そういう中で、中小企業である我々の東北工場において、今までどおりに人材を確保するのはちょっと難しいという状況にあります。

それに地元、郡内においても、大手企業が、県政にとってはもちろんプラスになることなんですけども、２００９年から１０年にかけて、富士吉田市内に３００人から４００人規模の工場を造るということがございまして、宮城県と同じように、２００９年から１０年にかけて、人材の募集は相当苦慮するであろうと予想されております。

そういう中で、将来にわたって安定的に人材が確保できる高専の設立が、我々企業にとっても非常にプラスになるのではないかなというふうに思われるところです。定員割れとか、時間も掛かる等々、難しい問題もございますが、その辺のところを是非クリアしていただいて、早期の開校に向けての行政の援助をよろしくお願いいたします。

〔知事〕

分かりました。

〔参加者〕

我々も日々魅力のある企業づくりというものに、小さいなりにチャレンジしているんですけども、魅力のある中小企業をつくるには、県の職員の皆さんが我々の現場に来ていただいて、現場を見ていただいて、人も見ていただいて、アドバイスしていただくというようなことも非常に大事かなと思うんですね。

それから親御さんが、子どもをものづくりの職業に就かせたいと思うような、そういう企業づくりも必要かと思います。良く知られてない部分がたくさんありますので、一緒になってそういう部分を広報していただくとか、中小企業にも、大きい企業も当然そうですけど、素晴らしい技術を持った方々がたくさんいますので、そういったものにスポットを当てるとか、もしくは世界的に優位性のある県内企業にスポットを当てていただいて、何か価値がある、楽しいものづくりを一緒に広めていくようなことをしていただくと楽しくて面白いかなと思います。

〔知事〕

なるほど。

どうですか。

〔参加者〕

先ほどから人口減というお話しがありまして、対策を色々考えてみますと、今日の新聞みたいにみんな県外に出ていっちゃう、エレクトロンでも５００人というようなことになりますとますます人口減ですよね。それに対して、山梨にあった企業誘致をもっともっと推し進めてもらう。人口減に歯止めがかかるような企業誘致ということを考えていただいたらと思います。

また、企業誘致してもその企業が全部社内生産で、外注、アウトソーシングがないということになると、山梨の中小企業は、大手のアウトソーシングに頼っているところが多いと思いますので、全部社内でやるから、外に出すものは何もないということになると、ちょっと・・。それだと税金払って人材確保して、ということだけになっちゃうんですね。ですから誘致する場合もよく企業を見極めて（笑い）、そのような方向で集めてもらいたいというふうに思います。

〔参加者〕

その時に重要なのは、山梨県の中小企業がいかに素晴らしいかという宣伝を、新聞とか雑誌とか、県のいろんな広報で宣伝してもらう必要があるんですよ。

山梨に行ってもそんな大した下請けさんというか、発注先がないのに、行ってどうするんだという、そういう不安があると思うんです。これを払拭するには山梨にはどういう企業があって、どういう技術レベルで、どうなっていますよということを、ＰＲしていただくといいと思っています。

産業支援機構で調べればどういう技術レベルで、どういう装置を持って、どういう加工部品をやっているかということが分かりますので、それを外に発信していただくと、皆さん非常に安心して来てくれると思いますよ。

〔参加者〕

私のところは、日夜技術者の確保に苦労して、もう定数に全然満たない状態ですので、もういろんな手練手管を使ってやっております。それで少しはＵターンの方とか、県外の方でも何か魅力を感じて私どもの所に来ていただいているんですが、それでも少ない。大体いつもいいところまで行って断られることが多いんですけども、それは何かといったら多分２つあって、企業の魅力というのももちろんあるんですけども、山梨で勤めるという話になった後で、話が壊れていくということがございます。私も県外の人間でこちらに住んでもう２４、５年で、一番長く住んでおりまして、ふるさとみたいなものです。

住んでみるといい所がたくさんあるわけなんですけども、やはり初めてそういう話を聞く人達には分からない、口で伝えても分からない。何とかそれを彼らに知らしめたいと。それをどうしようかということを常に私たちは悩んでいます。ですから採用直前に、こちらに来ていただいて、工場を見たり周りを見ると少しは変わってくるだろうし、一晩でも泊まってもらえれば変わってくるだろうと思うんですが、その辺のところが一企業の努力ではなかなか良いところをアピールできない。そういうアピールをどこか我々の企業と一緒になってやって、山梨に来てもよさそうな方たちを集めて企業をアピールしていくと、また違う流れになるのかなと常に思っています。その辺でいい方法があったらと考えています。

〔司会〕

時間も経過しておるようでして、大体皆様発言していただいたと思います。

では知事さん、まとめのあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

まず人口を増やすべきだというお話があったんですけども、正直言って日本の人口というのはこれだけ減ってきつつある。東京都の人口も恐らく１５年後には、厚生労働省の試算では減ってくるわけですね。そういう中で山梨だけ人口を増やしていくのは現実問題なかなか難しいだろうと、というふうに思うんですね。

しかしながら年間３千人からのいわゆる流出人口があるわけですから、それを何とか引き止める努力をしていくということとか、あるいは流動人口というか、交流人口といいましょうか、これは観光客であったり、あるいは二地域居住というような形であったり、人々がいつも出たり入ったりしているという、そういう交流人口を増やしていくということは、これは可能じゃないかというふうに思っておりますが、なかなか定住人口を増やすということについては難しいかなと。しかしそれは当然努力すべきものだというふうに思っております。

それから中小企業として新規立地する場合非常に負担が多いということは、おっしゃるとおりで、企業立地法とかそういう法律で色々減税措置もあるんですよ。あるんですけれどもそんなに効くものじゃないなという感じはするんですけどね。しかし設備の貸与なんかについて、優良な対応先については多少優遇するとか（笑い）、確かにあったらいいかなと感じはいたしますね。

それから、企業の委託を受けて研修をするというようなことを、半年でもいいから設け

たらというお話はもっともだと思いますので、検討してみたいというふうに思っております。

そして郡内への高専の話、それから県内の企業の素晴らしい技術というものをできるだけ広報する機会を、我々としても是非考えていきたいというふうに思っております。

企業誘致を進めるということは全くそのとおりでございまして、さっき言いましたように、誘致の職員３人のところを１２人に増やして一生懸命やっているんです。去年は２０社立地しまして、今年も恐らく２０社ぐらいは立地すると思います。ただ山梨というのは面積も狭いし、人口も少ないですから、大きい企業は立地できないんですよ、残念ながら。臨海部に、例えば堺に１千ヘクタールの地にシャープが立地したり、そういうふうなわけにはなかなかいかない。しかし小さい企業ですけれども、きらりと光るような企業が大体２０社ぐらいずつ立地してくるということはありまして、そういうものも大事だなというふうに思っております。

それから山梨もいい所がたくさんあるのに、なかなか若い人が定着をしない、山梨に魅力がない。おっしゃるとおりだと思うんですね。色々あるんですけれども、例えば甲府の中心街がもっと活性化をして、洒落た商店街があるとかということは一つあるでしょうし、それから病院なんかについてもしっかりした病院がある。あるいは子育てをする方々にしてみれば、非常に進学もいい学校、例えば鹿児島のラサール高校みたいな、そういうのがあるのがいいとか、色々あるだろうと思いますね。これはもう県土づくりそのものでありまして、まあ努力をしていかなければいかんと思いますが。

山梨のＰＲをもっと強めなければいけないということはそのとおりでありまして、かつて埼玉県に土屋さんという参議院議長をやった知事が出て、盛んに埼玉のＰＲをして効果を上げました。やっぱりＰＲの効果というのはあるもので、山梨ももっともっと東京をはじめとする県外に、山梨の良さとか素晴らしさというものを、ＰＲしていく必要があると思っております。そんなことも今考えてみたいというふうに思っています。

企業立地の場合、端的に言うと山梨は工業用地の残面積は全国一少ないんですね。工業用地が少なかった、工業団地を造ってこなかったんですね。

これを今になってようやく、これじゃいかんということで、工業団地を造ろうとしているわけです。人の確保が非常に難しいとか、企業誘致もなかなか大規模なものは非常に難しい面があるなという感じはしますけど、しかし努力はしていかなければいかんというふうに思っています。

確かに最後は、お話にありましたけども、やっぱり山梨という土地が、よその人間から見て魅力のある都市であるかどうかというところに、いろんな意味の決め手があるという感じはいたしますね。

大変今日はありがとうございました。

〔皆で〕

ありがとうございました。（拍手）

〔司会〕

どうもありがとうございました。まだまだ皆さま言い足りないことがあると思いますけ

れども、ここに商工労働部から課長が４人も来ております。また商工労働部などをとおして、県のほうに提案、あるいは質問などして下さい。よろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。